

観光社会資本の事例

テーマ	明治の土木技術を今に伝える船頭平閘門
【施設の状況写真】	
	
左下が木曽川、右上が長良川、真ん中に2つをつなぐ船頭平閘門	赤煉瓦が美しい船頭平閘門 (閘室の中から木曽川を望む)
【施設の利用写真】	
	
1日に1～2回程度閘門を操作します	総合学習などで地元小学生が見学に来ることも多い
【観光資源としての利用状況】	
船頭平閘門は平成12年5月25日、国の重要文化財に指定されました。 指定理由は、①我が国で数少ない明治期に建造された閘門で現在も使用されている。 ②複閘式閘門として我が国最初期のものである。 ③躯体、門扉ともに近代的部材、工法で建設された閘門である。	
船頭平閘門には明治の土木技術を見学に大勢の方が訪れています。平成16年度は約3400名の方が、木曽川文庫と合わせ来場しています。	

テーマ	明治の土木技術を今に伝える船頭平閘門
【社会資本の基礎データ】 ○名称 船頭平閘門 ○所在地 愛知県愛西市立田町福原 ○事業名 河川改修事業 ○事業主体 国土交通省 ○事業期間 1899年(明治32)～1902年(明治35)、平成5～6年(水門扉等の改築)	
【社会資本の役割・効果】 <船頭平閘門の役割> 水位差のある二つの川の水位を調節して船を通す施設を閘門といいます。 明治20年(1877)から行われた木曽三川分流工事(明治改修)において、一度河口へまわらなくては隣の川へ船を乗り入れられなかったため、この木曽川・長良川の舟運確保のために船頭平閘門がつけられました。 <船頭平閘門の効果> 完成後、大正初年までは年間2万隻以上の船が通りました。筏の数も明治年間、年間1万枚を超えていました。 昭和8年(1933)、昭和9年(1934)には、木曽川・長良川に橋が完成し陸上交通が発達してきたため、船、筏の数は減少し、現在では荷物を積んだ船はほとんどなく、漁船やレジャーボートが大部分を占めています。(年間500隻前後)	
【位置図】 	
	
【関連ホームページ】 木曽川文庫ホームページ http://www.kisogawa-bunko.cbr.mlit.go.jp	

